

「ビクター誌」に掲載した高柳先生の対談

福原 毅

私は昭和38年に日本ビクターに入社してすぐに営業本部の販売推進部で特約店向け PR 誌の「ビクター誌」の編集を担当しました。当時は企画、取材、編集を全て手作りで作成発行していました。

特約店様の経営に参考になる情報やビクター製品の告知などを毎月提供していました。当時売れっ子だった漫画家の久里洋二さんとのお付き合いのなかで、ビクターには「テレビの父」と言われている方が専務をしていると話したところ大変興味をもたれました。一流の漫画家と偉大な技術者の発想は畑が違っても「未来への予見」「ポンチ絵からの発想」という点でどこかでつながるのではないかと思います。当時横浜工場におられた高柳先生にお会いして対談の企画をお話したら「面白そうだから企画を進めなさい」とご指示頂きました。

そういう経緯でこの対談が実現しました。挿絵は全て久里洋二さん自ら書いてくださいました。対談終了後に高柳先生が「今日は大変愉快だった」と感想を漏らされて嬉しかったことを覚えています。

昭和41年の事です。まだカラーテレビが本格普及する前の事です。カラーテレビの将来についてお話されていますが、その中で「将来テレビは薄くなって壁掛けテレビのようなものが出てきますよ」と話されています。現在の薄型液晶テレビのようなものをすでに予見されていたのかと思うと驚きを覚えます。

この対談は当時虎ノ門の霞山会館にあった営業本部で収録しましたが、お二人とも大変盛り上がり話をしていただいた事が懐かしく昨日のように思い出されます。

高柳先生の「生誕100周年」の時に何かお手伝いしたいと思いました。

当時私の親友がNHKに勤務していましたので「NHKとして高柳先生をテーマにテレビ誕生の番組ができないか検討してほしい」とお願いしました。

高柳先生は戦前NHKの技術研究所でTVの研究をされていた関係があり、検討の結果番組制作をすることが決定しました。ビクター側は広報室が窓口となり関係する皆様方のご協力を頂いて番組が出来あがり、夜のゴールデンタイムにEテレビの特集として1時間番組で放送されました。中村めいこさんがキャスターをされました。

番組放送のキッカケを作ることができたという良き思い出として残っております。